

かわらばん

vol.
127

2019.12

tottori red cross hospital magazine

発行元：広報委員会
発行責任者：広報委員長

最新の肺がん治療について



内科(呼吸器) 中崎 博文



わが国ではがんは生涯に2人に1人が罹患すると言われています。その中で肺がんは男性で罹患率2位、死亡率1位、女性では罹患率4位、死亡率2位といずれも高い割合を占めています。

肺がんは喫煙との関連が非常に大きいがん、タバコを吸う人は吸わない人に加えて男性で4.4倍、女性で2.8倍肺癌になるリスクが高くなります。また、タバコの副流煙により発症する危険性が高まることも知られています。

肺がんの生存率は表にあるように早期であるほど高い傾向にあります。(ただ、約10年前のデータなので現在は治療の進歩により成績はこれより向上していると考えられます。)

治療の方法ですが、一般的にはⅠ期、Ⅱ期は主に手術で、Ⅲ期は放射線+薬物療法で、Ⅳ期は薬物療法で行います。私たち内科では肺がんの診断とⅢ期、Ⅳ期の肺がん治療を主に担当しています。肺がんの診断は気管支鏡検査による病理組織採取やCT、MRI、PET-CTなどを駆使して総合的に行います。

内科で行う肺がんの薬物療法は、近年著しい進歩をしています。その治療内容をご紹介します。

☒ 細胞障害性抗がん剤(いわゆる従来の化学療法)

がん細胞に直接作用し、細胞増殖を制御しているDNAに作用したり、がん細胞の分裂を阻害したりすることでがん細胞の増殖を抑制します。しかしながら、正常細胞に対しても影響が出やすく、そのため嘔気や下痢などの消化器症状や白血球や血小板が減る骨髄抑制などの副作用が起こることもあります。

☒ 分子標的薬

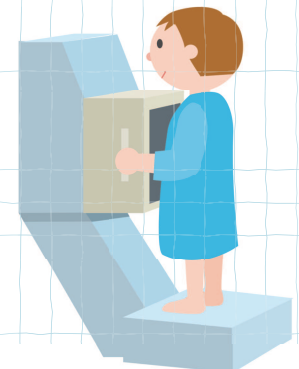
近年、肺がんの増殖に関与している分子の特定をすることができるようになり、EGFR 遺伝子変異や ALK 融合遺伝子、ROS1 融合遺伝子などの有無を特定することで、それらの分子に特化した治療薬を使用できるようになりました。一般的にはこれらの薬剤が使用できればⅣ期の生存率は細胞障害性抗がん剤に比べて2~3倍に向上することが知られています。

☒ 免疫チェックポイント阻害薬

いま、盛んに開発が進んでいる分野で、京都大学の本庶佑先生がノーベル賞を取られたことでも有名な治療薬です。人間の免疫はがん細胞を排除するようにする働きがありますが、がん細胞はそれを打ち消す働きがあります。免疫チェックポイント阻害薬は、そのがん細胞の働きを止める治療薬です。

また、当院では国立がん研究センター東病院を中心として行われているLC-SCRUM-Asiaという研究に参加しており、同意が得られた患者さんのがん細胞をさらに詳しく解析し、治療の標的となりうる新たな遺伝子が発見された場合は、治験に参加していただくことも可能です。

最後に、
治療は日々進歩していますが、
やはり何よりも早期発見が治癒への近道です。
年に1回は胸部レントゲン検査を受けていただき、
早期発見に努めるようにしましょう。

鳥取赤十字病院マスコットキャラクター
オリピー

～「放射線治療棟 増改築工事」進捗状況のお知らせ～ 放射線が外部に漏れないようにする鉄板を設置しています



10月上旬から11月中旬にかけて、杭打ち及び基礎躯体工事が無事終了し、11月下旬から壁、床部分の遮蔽工事を行っています。

遮蔽工事とは、「リニアック」というがんなどの治療を行う装置の放射線が外部に漏れないようにする工事です。

まず、厚さ450～480mmの分厚い鉄板を何枚も重ねて、鉄の壁を作ります。リニアック室に使われる鉄板の総量は約277tにもなります。その後、鉄板のまわりにコンクリートを打ち込み、最終的には1,400mmの壁を作り放射線の遮蔽を行います。

一般的なビルの壁の厚さは、約200mm程度ですので、相当な厚さの壁となります。

その後、天井部分の鉄板遮蔽、コンクリート打設を行い、地上部分の躯体工事が完了します。計画どおりに進捗すると2020年3月末に躯体工事は完了し、順次、内装・設備・外構工事及び本館の放射線診察室等の内部改修を行い、5月末の完成をめざしています。

今後も工事に伴い、騒音・振動等々でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、引き続きご協力をお願い致します。



何枚もの鉄板による鉄の壁。
この後、まわりにコンクリートを打ち込み分厚い壁を作ります。

クリスマスミニコンサートを開催しました！

12月19日(木)4東病棟(小児科・産婦人科混合病棟)多目的ホールにて「療養や通院中の患者さん、ご家族に癒しのひと時を過ごしていただきたい」との思いから、クリスマスミニコンサートを開催しました。



多目的ホールでの演奏

イングリッシュ・ハンドベルチーム Calliron six(カリヨン・スイス)の皆さんをお招きし、クリスマスにちなんだ曲の演奏をいただきました。

心に染み入るような優しいハンドベルの音。最後に演奏いただいた、鳥取を代表する曲「ふるさと」では、来場いただいた方々も自然と歌詞を口ずさみ、とても良い雰囲気でのコンサートでした。



4東病棟での演奏

鳥取赤十字病院は、地域の皆様に信頼される病院を目指しています。

当院は急性期の医療、専門的な医療を行っておりますが、地域医療支援病院として他の医療機関と連携を密にしておりますので、症状が安定された方はご希望に応じてかかりつけの医師や診療所に紹介させていただくことも可能です。

なお、その際も定期的な検査や病状変化の際は、当院が責任を持って診療いたしますのでご安心ください。

